

170 cm 前後) と床温ともにザシキの日較差が他の2室(いろりば, なかのま)に比較して小さく, またいろりばとの差の方が大である。

12月~2月にかけての夜間の床温は一般にザシキ床温が高い日が多く, 5月~7月にかけてはその逆の現象がみられる。

従って, 土座式住居は冬暖かく, 夏涼しいと言う経験的事柄が室内微気候学的に証明されたと言ってよい。

E-1 土座農家の室内微気候

奈良女大家政	○市川 啓子
山形大教育	金子 幸子
奈良女大家政	梁瀬 度子
	花岡 利昌

1. 奈良女子大学家政学部生活環境学教室では, 1960年以來民家の微気候学的研究を行なってきたが, 今回は東北地方になお残存する土座様式(土間に藪がらを敷き, その上にむしろ, 上敷きを重ねて床にしたもの)の農家について, 特に室温を中心とした微気候学的研究を行なって土座様式住居の様態を若干明らかにしたのでこれを報告する。

2. 測定対象家屋は山形市大字長谷堂内町の「ザシキ」のみを土座とする片桐家であり, 電子式自動平衡記録計(S T-3200-12型の打点式)を用いて室内各部(10ヶ所)の室内気温と外気温の同時連続測定を行なった。測定期間は1967年11月20日から1968年7月7日までである。

3. 測定の結果, 気温の日較差については室温(床高